

よこすか 働き人

VOL. 4

万に一つを世に出す世界

初めて作ったラジオから、音が聞こえた。「なんで音が鳴るの?」「どこから音がくるの?」子どもの頃の不思議な体験で、たちまち電機の虜になった。大人になって、いろいろな事やってみただけど、「僕はやっぱり電機がいいみたいだ。」と電機の世界に飛び込んだ。

研究所の技術者として働いていた二十代前半。コツコツやるのは好きだから一日中研究室にカンツメでも苦にならなかった。手がけていたのは、内視鏡カメラやVTR。社運を賭けた研究だから産業スパイなんかにも目を光らせていた。万に一つを世に出す世界。四十年前も前だけと僕の夢は、「かべかけテレビを創りたい!」だった。本当に好きな仕事でした。

今も昔も子どもは変わらない
変わってしまったのは大人のほう

YOKOSUKA HATARAKI-BITO



しょうじ 祥始さん
みとめ 三留

有限会社 みとめ 代表

大工にだけはなりたくなかった

技術者として、二、三年経った頃、親父が土地を手に入れた。そこに「僕の家を建てる。」と言う。僕の金遣いが荒かったからだね。若かったし。

ある日、現場に行ってみると、柱を背負って大変そうだった。担いでみたら、重たいんだよね。「こんな重たいもん持つてるんじゃないよ。若いもんがやれるところだけでも手伝わたら楽だろうな。」何より僕のために造ってくれているから、手伝わずにはいられなかった。ちょうど、親父は今の僕の歳くらいだった。本格的にやるつもりは無かったけど、十年くらいで前の仕事に戻ろうと思っで、仕事を辞めた。でも、親父がなかなか引退しないから、気が付けば二十五年くらい経ってしまった。結局は、戻る機会をなくしちゃったよね。

小さい頃から親父の仕事を見ていたから、大工にだけは絶対になりたくなかった。親父は根っからの大工だね。ただの一度も「大工になれ」とは言われなかった。でも、電機の道に進んだ僕の事を親しい人には、「寂しい」と漏らしていたらしい。そんな親父だから、大工の道に進んでも、僕にはいい顔なんて見せなかった。



40代の頃、三浦の実家の建て替えて

与えられた事をとことんやる

豊かで、選択肢がたくさんある中で、夢を持っている子は少ないと感じるね。でも、僕らの子どもは頃々は無垢で素直なのは間違いない。

グループディスカッションで人はそれぞれ自分の持ち分があって、自分の持っているものを生かす何かを見つける。

僕の思う適材適所の話の時、ある子が、「勉強するのが嫌だから、学校なんて来たくない。」と言った。僕は、「来たくないのなら、来なくても良いよ。」と言った。「でも、そのかわり「家」について

何かしなくちゃならなくなるだろう。学校へ来ないで、他にやりたいことがあって、勉強より情熱を注げるものならば、周りの大人を納得させて、それを買えばいいんだ。でも、そんなもんがないんだら、与えられたものをとことんやるのがいいんじゃないか。」

今も昔も子どもは変わっていない

ディスカッションも一回目と二回目では、大きな進歩があったよ。生徒が変わったことで、先生も変わった。それは、僕ら入会がいかに進歩していないかっ



て事なんだな。子ども達はこれほどまでに成長するんだから、社会や大人の指導さえ良ければ、見捨てたもんじゃ無いと感じたね。今も昔も子どもは変わっていない、変わったのは大人のほうで、つい大人の価値観で子どもを見てしまう。僕が育った頃とは時代が違うのは当たり前、その時代に合った生き方があると思うんだよね。

今後の生きがい

木を楽しむ、木楽倶楽部を

木楽倶楽部

六十歳を過ぎて、やっと大工をやったよかったです。今は何の後悔もないね。若い人のような力はないけれど、経験と時間と心のゆとりはある。MTTを受けたのも、今の自分で良かったとも思う。今まで自分が教わったことを若い世代に伝えていくことができる。これからの自分の役目だと思ってる。これからの人達に関わってもらった恩返しのためです。日本人は物づくりを得意としてやってきた。その心意気を忘れて欲しくないと思っから。



有限会社 みとめ ※2011年度 MTT 派遣回数 6回

〒238-0313 神奈川県横須賀市武 3-24-17

TEL. 046-857-0476

E-mail yumitome@yahoo.co.jp.

設立 昭和 62 年 10 月 1 日

建設業許可：神奈川県知許可（般-17）第 46373 号

木を楽しむサークル「木楽倶楽部」毎月第 3 日曜日、午前 10 時からお昼まで、木と触れ合っています。お気軽にお問い合わせ下さい。